

監督会議資料(県体)

平成30年5月19日(土)

時間: 8:20~

場所: 大会議室

1. 選手変更及びミスプリントについて

2. 競技規則について

- (1) ルールは、現行の日本卓球ルールを適用する。
- (2) 接着剤の使用は、所定のラバー貼替所(1Fの体育館南入口)でのみ許可する。
- (3) 学校対抗戦ならびに個人戦ダブルスにおいては、ユニフォームを統一すること。
- (4) タイムアウトは、全試合適用する。
- (5) アドバイザー(別紙)については、要項に記載している規定を遵守すること。

3. 競技の進行について

- (1) 19日(土) 学校対抗予選リーグ→学校対抗決勝トーナメント13:30(予定)→
学校対抗決勝までとダブルス

※ただし、ダブルスは11:00より試合可能なところから入れていく。決勝トーナメントと
平行して入れていく。(ダブルス最終コール16:00予定、ベスト8決定を目標)

20日(日) ダブルス決勝まで、シングルス決勝まで

- (2) 学校対抗戦の予選リーグ及び決勝トーナメントは2コートを使用する。
- (3) 試合順序(学校対抗)
 - ① 3チームのリーグ戦
第1試合 2-3
第2試合 1-(第1試合の敗者)
第3試合 1-(第1試合の勝者)
 - ② 4チームのリーグ戦
第1試合 1-4 2-3
第2試合 1-3 2-4
第3試合 1-2 3-4
 - ③ 学校対抗のダブルスは、決勝戦は他のシングルスと並行して行わない。
それ以外は、可能な範囲で並行して進める。
- (4) 試合は全て3点先取とする。
- (5) 学校対抗戦のベンチは、番号の若いチームが本部に向かって左側とする。ただし、続けて
試合が入るときには、この限りでない。
- (6) 学校対抗戦は、A、Bグループからは1・2位チームが、その他のグループは1位
チームが決勝トーナメントに進出する。
- (7) オーダー用紙の提出について
決勝戦のみ本部席へオーダー用紙を提出する。
- (8) 20日(日)の朝は、競技に先立って学校対抗の部の表彰を行う(8時50分)。

4. 審判について

- (1) 学校対抗の部
 - ① 学校対抗戦の予選リーグ
3チームのリーグ: 試合を行っていないチームが審判をする。
4チームのリーグ: 相互審判とする。
 - ② 決勝トーナメント1回戦は相互審判で、以後は敗者審判とし決勝戦主審は審判委員が行い、
副審を準決勝で敗れたチームが行う。
- (2) 個人戦の部
 - ① 各コートの第1試合は、相互審判で行い、その後は敗者審判とする。
 - ② 勝者は、試合結果を進行席へ報告し、敗者はコートに残って次の試合の審判を行う。
 - ③ Dは準決勝から、Sは準々決勝から審判委員が行う。ただし、敗者は副審をする。

5. その他

- (1) 練習について 5月19日(土) 8:00~8:45
5月20日(日) 8:00~8:45

(2) 試合進行に協力すること。(試合の打ち切り、棄権等になる場合もあります。)

①ベンチコーチ1分 ②コール後5分以内に試合開始 ③試合後速やかに勝者は本部へ結果報告

- (3) 開会式（19日8時50分）は、各校1列縦隊で整列すること。
- (4) 貴重品の管理、ゴミの処理、上下靴の区別は、各校で責任をもって行うこと。
- (5) 体育館の開場は、19日・20日ともに7時50分。
- (6) ベンチコーチは、団体戦、個人戦共に1名のみとし、途中交代は認めない。ただし、同一のアドバイザーであれば何度でも出入り可能。
ベンチコーチは、当該高校部員（男女を問わない）＋監督（学校対抗）＋アドバイザー2名（男女別に）を認める。（学校対抗監督は役員章着用、アドバイザーは許可証着用）
- (7) 補助体育館は調整用練習所として開放するが一般の生徒は入場させない。
（2日目は13時まで開放）
- (8) [練習コート割当] 別紙参照。
- (9) コートサイドでのビデオ撮影は、本人及びチームの試合のみ認める。
観客席からの撮影は制約しない。
- (10) 上位大会への参加について
①四国大会 団体4、ダブルス8、シングルス16
②インターハイ 団体1、ダブルス2、シングルス4
上記大会へ出場が決まりしだい要項を配布する。
エントリー順位は、新人戦、春季、県体の戦績を総合して決める。
- (11) ラケット検査について
適宜ランダムに行う。
- (12) シングルスベスト4の選手は、国体1次予選（6／30県民体育館）を免除され2次予選へ出場できる。尚、1次予選を免除された選手は、2次予選に出場することを願い出ること。国体2次予選（7／1県民）は、県体ベスト4＋1次予選ベスト4（＋ふるさと選手）の計8（9）名でリーグ戦を行う。
- (13) 選手のアップ場については、組合せやコールを参考に適宜活用し、進行に協力して下さい。ただし、応援やアドバイスは禁止とする。
- (14) 表彰
団体、ダブルス、シングルの1位～3位を表彰する。
団体優勝校から男女各1名に殊勲賞を与える。
団体準優勝校から男女各1名に敢闘賞を与える。
団体優勝校、準優勝校以外から、団体または個人戦において活躍した選手に優秀選手賞を男女各2名に与える。